

2019.11.14(木)  
第19回例会  
(通算 3572回)

# 2019-2020年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「CONNECT！ロータリーをよく知ってより大きい輪をつくらう！」

第83代会長	天方 智順	例会日	毎週木曜日 12:30～13:30 夜間例会 18:00
副会長	後藤 公貴	例会場	釧路センチュリーキャッスルホテル
幹事	松井 聖治	事務局	釧路市錦町5-3 ミツ輪ビル2F
編集責任者	クラブ会報雑誌委員会	☎	0154-24-0860
		☎	0154-24-0411

2019-2020年度  
国際ロータリーテーマ



2019-2020年度 RI 会長  
マーク・ダニエル・マロニー  
第2500地区ガバナー  
吉田 潤司 (釧路 RC)

月間テーマ	経済と地域社会の発展月間
本日のプログラム	RLI とは！ (担当：クラブ研修委員会)
次週例会	Windows10 化に伴う課題と ICT の動向 (担当：プログラム委員会)

- ロータリーソング：「四つのテスト」
- 会員数 100 名
- ビジター なし
- ゲスト なし
- ニコニコ献金

■ ソングリーダー：石鍋 斎君

今年度累計 263,000 円

## 会長の時間

### 天方 智順 会長



皆さん、こんにちは。お食事をとられている方はお続けください。

先日、今上天皇の祝賀パレードが晴天の下で行われました。見ていたのです

が、本当に嬉しい気持ちになりました。

年功序列に通じる言葉で「長幼の序」という言葉があります。長男の長、幼は幼稚園の幼、序は順序の序です。古来、日本では男兄弟が長男、次男、三男といると一番年上の長男が家督を継ぐとか、田畑を継ぐなどの教えがあって、天皇家もまさにそういう感じで男系の皇族が少なくなっているみぎり、今上天皇が即位されたのは本当に嬉しく思っております。

年功序列の話をしました。年上の方を敬わなければいけないと先週から思っております。100名の平均年齢、59歳がわがクラブです。会長を務める私でさえ平均年齢より下です。要するに、私より年上の方が多いということです。私でまだまだですから、40代の会員なんて赤ちゃんみたいなものであります。先ほど、30年、35年の年功バッチが届けられましたが、健康でいて、そこまでもらってみたいものだと思いました。

今日は何の日かといいますと、「アンチエイジングの日」らしいです。11月14日の「いい年」の語呂に合わ

せてアンチエイジングの日だそうです。アンチエイジング、この10年くらいで出てきている言葉かなと思います。不老不死に通ずる「いつまでも健康でいたい」という願いかなと思います。

いろいろ見ていると、「あまりアンチエイジングによろしくないもの」ということで、ひとつ目に砂糖が入った炭酸飲料、次に揚げ物、三つ目にコーヒーで、プラスチック物ではありませんが喫煙。全部、私に関係するものでした。健康にも気を使っているつもりですが、ロータリークラブのせいにはしたくないのですが、いろいろ出る機会が多い、お酒をいただく機会が多い、外食する機会が多いということで、ちゃんと気をつけなきゃいけないかなと思います。

もうひとつ。先日、第7分区の会長・幹事会が白糠の地でありまして、吉田ガバナーもいらっしゃいました。今月はロータリー財団月間です。それで、白糠クラブが100%ポール・ハリス・フェローの表彰を受けておりました。ポール・ハリス財団から「100%」という大きいバナーがくるので、それを見せていただいて、わがクラブは肅々とそれも目指しています。来年にもそのバナーをいただけるのではないかなと思います。

最後にひとつ、申し遅れました。先日、米山月間において清水幸彦会員から多額の寄付を頂戴していることをここにご報告させていただきます。本当にありがとうございました。

それでは、本日もよろしくお願いたします。

## 年功バッチの表彰 天方 智順 会長

昨年度の細川ガバナー年度においてですので細川ガバナーの名前で、30年1名、35年3名に届いております。30年、本間榮一会員。続いて35年の川合隆俊会員。お二方目、尾越会員、最後の方です。「俺、35年だ」と騒いでいる声が聞こえています小船井会員。  
以上、おめでとうございます。



### ■本日のプログラム■ RLIとは？

## クラブ研修委員会 木下 正明委員長

クラブ研修委員会委員長を仰せつかっております木下です。

昨年まで情報委員会という名前でした。今、皆さんで行っていただいております情報集会をしたり、新入会員が来た時にレクチャーをしたりします。新入会員の歓迎会では冒頭でお話したりするのが主な役目でした。

来月の1週目くらいに地区として次の次の年度のガバナーが決まる予定になっています。今、吉田ガバナーが輩出されてガバナーをされております。これは約3年前に決まったということなのです。

吉田ガバナーのテーマが「知らずで語れず！」を今年のテーマにあげておりますが、やはりロータリーのことを知らないといけないということで強くその時期から掲げておられました。昨年度、その時の西村情報委員長のご配慮で、例会とは別に夜に皆さんに集まっていたきまして、いろいろな勉強をさせていただいておりました。

1回目、今回の地区大会に来ていただきました2510地区の羽部大仁パストガバナーにロータリー全般についてお話いただきました。2回目、今年5月に開催されております。その時は葎本パストガバナーに「RLIについて」ということでお話いただいて、実際に模擬RLIをやってみようということをやりました。今年は1日、こういう例会の日を当てていただき

して、私がお話させていただいております。「RLIとは」ということで小船井パストガバナー、郡パスト会長、私も締めで少しまたお話させていただきます。皆さん、RLIの話は出てきていたり、聞いた言葉だと思いますが、中身がよく分からないと思います。何回かご講演をさせていただきまして、RLIとは何ぞや、RLIはロータリーに役に立つのか、などを勉強していただきとっております。  
それでは、小船井パストガバナー、よろしくお祈りします。

## 小船井 修一パストガバナー

私は、15分の時間を頂戴しましたので、手早くお話し申し上げます。RLIとロータリーの研修というお話の前に、今日も白幡さんのところで、われわれ



れで言うと炉辺会合という言い方ですが、情報集会がございます。これもRLIなのです。基本的にディスカッションリーダーという方がわれわれを招集して、そして記録をする方がおられ、そしてテーマをもって、そのテーマを基に議論をしていくことが、われわれにとっての情報集会の目的です。酒を飲むのが目的ではありません。

いろんな意味で私どもにとって、ロータリーでの研修という言葉、学ぶことに関して、いかに大事かをまず皆さまに知っていただきたいのです。先ほど委員長からお話があった吉田ガバナーの「知らずで語れず！」。要は、ロータリーを知ることによって、ロータリーのこと考えながら、語り合って、そして行動をしよう、というテーマだと私は理解をしています。そういうことで、私の15分の目的は、「RLIの目的と経過」をお話申し上げながら、ロータリーの研修の実際の中ではDLT、CLT、国際協議会、PETSなどいろいろロータリーの専門用語がありますが、それを煩雑かもしれませんがご理解いただければと思います。

RLIの目的と経過を読ませていただきます。ロータリーを理解し、ロータリアンとして活動するためには、クラブの底辺から一人一人のロータリアンが自発的に自覚をもった話し合いをし、本当のロータリーを理解すること。これがRLIの目的です。要は、先ほど申し上げた情報集会の目的と同じだろうと私は思います。

矢印で、事業や職業の世界の激変への対応のために。これはなぜそういうことをやったのか、目的の中で分類したわけです。青少年・婦人層とのロータリアン世

代との意識や感覚に大きなギャップがあるのではないだろうか。そして、ロータリーへの十分な理解を得ることなくロータリーを去っていく人たちが多い現実。例えば、1年間で1万人が入会すると1万人が退会をしていくという流れであります。

R L Iというのは Rotary Leadership Institute。そういう意味では学校です。学校って変な言い方ですが、リーダーシップという言葉は、指導者という言い方で置き換えていただければ幸いです。ロータリーの知識を啓発し、将来のロータリークラブ指導者を育成するための全世界の地域と地区の連合体組織である。そして、米山奨学会と同じ、多地区合同プログラム。今、全世界には550の地区があります。その中で約7割、400くらいに今、R L Iを導入しております。今から27年前の1992年にスタートし、2002年のR I 理事会は地区やクラブがR L I及びこれに類似したプログラムに参加することを推奨する決議を採択し、公認したということです。ただ、これは国際ロータリークラブのプログラムではございません。その理由は、正式なプログラムになると予算措置をしなくちゃいけないので、国際ロータリーはその予算に関与できないからが理由でした。

最後に日本は2008年、今から11年前に支部を設立し、現在は2770。埼玉の北元理事が会長をやられていると思います。

R L Iの研修方向、いろいろ書いてありますけれど、要は情報集会です。皆さんとディスカッションしながら、ひとつのテーマをもって議論を深めていく、結論は出さない。あるいは基本的に招集者の意思通りに、例えば、「俺はこういう結論を出したい」とかいう話ではなくて、皆さまたちの意見を集約しながら、建設的な結果にもっていくことが大きな目的と私は理解しています。

R L Iの具体例、これはパート1。これは邵さんが札幌で研修を受けてこられたことで、後ほど5分間のお話をさせていただけると聞いております。パート1に関して、R L Iは基本的にディスカッションリーダーの育成、ディスカッションリーダーを作るためのプログラムなのです。2500地区で3名がそういう資格を持っています。私と足立パストガバナー、そして言語不明瞭の葎本先生の3人が資格を持っています。

パート1の内容ですが、ディスカッションリーダーはロータリー言語でD L。D Lの進行で6つのセッション。セッションとはテーマです。10名程度の少人数で6つのテーマで話し合います。ひとつが「リーダーシップとは何か」、「その特徴とは何か」、「クラブを超えたロータリークラブと国際ロータリーの関係とはどういうふうに考えるのか」、「会員組織と退会防止」、会員の増強のためには、退会を含めてどうやっ

たら会員を増していけるのかというディスカッション。「奉仕活動の計画と実際上の問題」、継続事業でマンネリになっているとか、様々な部分でわれわれもテーブルミーティングとか情報集会の中で今まで何回もお話合っている、そういうテーマです。そして、「ロータリー財団について考える」、お金を出さなければいいのか、お金は出さないのか、それをどういう形で地域と地域外の国際的な関りの中で財団活動を支援し、自分たちはどう行動するか、について考えるセッション。

そして、最後に「リーダーシップとチーム形成」、クラブを活性化させる委員会構成、先ほど、木下委員長からお話ありました情報委員会という言葉は、今は国際ロータリーでは言いません。基本的にはクラブ研修委員会という名前を推奨しています。そういう意味では来年の舟木年度の中で情報委員会を研修委員会に変更いただくことをこの場をお借りしまして要請させていただきます。

それで、D L PとC L P。これはD L P、ディストリック・リーダーシップ・プラン、地区・リーダーシップ・プラン。地区・リーダーシップ・プランとC L P、クラブ・リーダーシップ・プラン。これは2002年ですから、私がガバナーやった時で17年前の古い話です。古い話の中で、D L Pの強制導入が2001年の規定審議会で採択され、2002年から施行されたものです。

国際ロータリーの研修システムは、D L P、そしてクラブ・リーダーシップ・プランに基づき、R L Iに準拠した形式で研修会を組織し、R I D、国際ロータリー・インターナショナル・ダイレクターです。R I 理事とガバナーにその開催を義務化しているものです。その義務化しているものは世界大会。来年のハワイは4日間で本会議と多くの分科会が入っております。それから国際協議会、これは6日間。清水先生は3回行かれていますし、私も4回行っていますが、6日間、本会議と多くの分科会。これもD L Pに準拠して開催されます。それから、ゾーン。これは日本全体と考えるべきでしょう。ゾーンの単位でのセミナーで、ロータリー研究会。神戸で今週の日曜日から始まりです。セミナーが入りますので、実質4日間、神戸で開催します。それから、会員基盤向上セミナー、ゾーン財団セミナー。これは日本全体でのそういうセミナーに関してもR L Iに準拠しながら開催されていることは言うまでもありません。

それから、地区開催各種会合をこれはすべてD L Pの中で、R I 理事会がそういう中身を作ったということの推奨であり、半ば強制であります。P E T S、次年度会長プレジデント・エレクト・トレーニング・セミナー、次年度会長研修セミナー、地区研修・協議会、地区大会、地区財団セミナー、地区増強拡大セミナー、公共イメージセミナー、米山セミナー、補助金セミ

ナー、そして、来年の松田年度には「元気なクラブづくりのためのワークショップ」というものも新たに作られました。

そういう意味では来年どうするか、これからだと思えます。いろんなものがDLPの中で様々なセミナーをRLIに準拠しながら開催されていて、それを推奨しているということを皆さんに知っていただきたいと思えます。

最後に、インターシティーミーティング、IMも準拠することを推奨。IMの中で「セミナー形式はRLI形式でやるべし」と書かれております。これはあくまでマニュアル上の問題で推奨ですから、やらなくてもいいのですよね。

それでアイデアは4つあるのです。RIが指定しているRLIも同じですが、「アイデア交換、ワークショップ、パネル討論、スピードミーティングの4つの形式の中で研修セミナーを開催すべし」と国際ロータリーで推奨されております。

アイデア交換の場合には、4つのテーブルの中で主催者・一番上のここにトレーニングリーダーがいて、たぶん、邵さんはこの形式で受講されたと思えます。アイデア交換という形式で、主にRLIが実施されると思えます。

ワークショップ、これはたぶん地区大会。来年の地区大会の1日目に次年度の会長たち、来年の会長・舟木さんが参加する時にワークショップという形で、テーブルごとに集まりながら、全体の会合をしながらテーブルでも討議し合う形式がワークショップと言いますがそれぞれやると思えます。

パネル討論、これはもちろんパネラーがいて、皆さんの中でお話を伺うというやり方がパネル討論です。

スピードミーティング、これは、参加者が移動しながらお互い名刺交換することがよくありますよね。守成クラブがこれをやっていますね。これはお互いに回りながら、お互いに討論しながら歩き回る。歩き回って変な言い方ですけど、スピードミーティングという方式。この4つの方式を推奨しているのが国際ロータリーのマニュアルです。PETSの場合も、2日間にわたってワークショップをし、アイデア交換をし、ワークショップをし、全体会議をするという形での本会議をする。全体の会議をしながらワークショップ、アイデア交換しながら、ひとつひとつのテーマを設定しながら話し合うこと。これを進行する人たちがディスカッションリーダーと私どもは理解しています。そういう進行をしていく人たちがクラブに何人かおられるかで、冒頭で申し上げました情報集会とか、様々な研修で充実した成果を得ることができる、そういう目的でRLIを組織されていることをご理解いただければ幸いです。

これで、私がいただいた時間はあと1分です。今年は

「知らずで語れず!」、吉田ガバナーの考え方の下に地区大会もいろんな意味で変更しました。PETSもいろんな意味で変更しました。そういう中でわれわれ自身も、クラブとしての結果を予約する上で、こういう学びの場に関しての理解をいただきながら、来年の2月、札幌で1泊2日のRLI研修があります。それに参加いただくこと、お考えいただくことをお願い申し上げます。私からの15分のお話に代えさせていただきます。ありがとうございました。

## 邵 龍珍パスト会長

皆さん、お疲れ様です。最近、ちょっと痩せて、「大丈夫?」「ガンじゃないの?」と言われておりますがだいまダイエットを頑張っている邵でございます。皆さん、健康第一で頑張っ



ていっていただければと思えます。

私からは、先ほどご紹介ありましたRLIに実際に参加したメンバーとして、その体験談、感想を5分間ほどで述べさせていただきますと思えます。

皆さん、ご存じのように、わが2500地区はいまRLIの準備委員会が設けられておりまして、葭本パストガバナーがその委員長です。

葭本パストガバナー・委員長いわく、たくさんの方がRLIに参加して、体験して、体感していただいて、その意見を準備委員会に上げてもらいたいという趣旨がございまして、先日の6月、7月、8月にわが地区の隣の2510地区の札幌コンベンションセンターという素晴らしい建物があり、そこでパート1、パート2、パート3という形でRLI研修が開催されました。残念ながら私は6月のパート1には行けなかったのですが、7月のパート2、8月のパート3に参加させていただきました。

このRLIはどのパートから参加しても大丈夫です。パート2参加してパート1に行ったり、パート3に行ったりができるのですが、その中で3回参加して終了証をもらったら卒業となります。卒業すれば、小船井さんも仰っておられましたDL・ディスカッションリーダーになるセミナーを受けて、晴れてディスカッションリーダーになって、その後は、そのセミナーの各セッションでの誘導する係になる資格を得られることになっているそうです。

6月のパート1には地区を代表して、木下地区幹事が参加されました。7月のパート2は私と次年度の地区幹事で富良野ロータリークラブの軽米さんが参加しておりました。パート3は漆崎ガバナーノミニ、そし

て2年前の地区幹事で網走ロータリークラブの本間公三さんも参加して、その後みんなが「ぎゅう太」に集まって、今後2500地区でRLIをどう考えていくのか、どうやって推進していくのか、意見交換したことをご報告させていただきます。

これが当日のテキストです。ちょっと分厚いのですが日本全国共通みたいです。4年に1回、内容が改訂されるそうです。この中にパート1、パート2、パート3までのテーマと、各パートは午前3時限・午後3時限、1日6時限の研修をしますが、3パートですから18項目のテーマがここに書いてあって、その内容も、説明文もこの中にあります。そのお題に沿って先ほど仰っていましたが、5～6人から10人くらいのチームになって、ディスカッションリーダーが話を振って行って、答えは出さないのです。話を振って、あとは掘っていくのです。掘って行って、皆さんと情報を共有する研修です。前で講師が3～6時間しゃべると本当に眠気がくるのですが、長いなと思ったのですが、あっという間に1日が過ぎたかなと思っております。それは参加したメンバーの共通した意見でした。

そして、これがパート2の終了証なのですが、ここに参加した地区ガバナーのサインとRLI日本支部長の北清治さんのサインがあります。このRLIは、どの日本地区、どの地域でのRLIに参加しても終了証をもらえる資格があります。ぜひ、皆さん時間があつたらどの場所でも寄っていただければと思います。

まず、僕はこれに参加して何が一番良かったかといえますと、さまざまな方が参加されていて、入会間もない方、パスト会長、会長エレクト、会長ノミニ、各地区の委員、いろんな人がいろんな状況の中で参加していたのですが、ひとつのテーマを皆さんがクラブごとで話をしていくのです。私も振られました。釧路ロータリーはこうしているという話を、私自身もそうですが、釧路ロータリークラブの堀の中で、クラブの中しか知らない。他クラブはどういうことをしているのかをPETSでも皆さんに提案したのですが、そういった状況で生の声を聞ける。その人の立場で本当に不満を言う人もいました。クラブに長老さんが多くてなかなか新入会員が入らないと言うクラブもありました。そういったクラブを比較して、うちのロータリークラブは本当にありがたいというか素晴らしいクラブだと再実感できました。逆に言えば、自問自答。自分がこの間、釧路ロータリークラブのロータリアンとしてどういった形で接してきたのか、どういった活動してきたのか。自分が会長の時に何をやってきたのかということ自問自答する貴重な時間になったかなと思いました。

時間の関係上最後になりました。参加対象ですが、2510地区役員の方も仰っていましたが、パストガバナーやパスト会長などロータリー歴の長い大先輩の皆

さんはロータリーのことたくさんご存じなので、ちょっとご遠慮いただくというか。クラブを振り返るいい機会なのではないかなと思いました。絶対参加してほしいなと思ったのは入会間もない新入会員の皆さん、ロータリーのいろはがまだわからないとか、ロータリーのことを全く分からない方は、自分と一緒に立場の方が本音でトークをできる、皆さんとともにいろんなことを深めながら自由な会話ができることで勉強になると思います。

ルールがあるのです。「人の話を否定しない」というルールがあります。「人の話を中断しない」「楽しく話をしよう」「話は端的に分かりやすく話をしよう」とか、そういったルールの中でやりますので、非常に勉強になるかと思しますので、ぜひ、参加してもらいたいと思います。

もうひとつは、次年度会長・幹事、理事の皆さん、そして次々年度の会長・幹事、そしてクラブリーダーの皆さんはぜひ参加して、自分のクラブだけじゃなくて他地区・他クラブの活動をよく聞いて、自分のクラブが2年前から、エレクトの時はノミニの時から、こういった思いを募らせて育成していきながら、1年前には計画をして、当該年度では実行していくという流れができれば、うちのクラブとしてもよりよいクラブになっていくのではないかなと思った研修会でした。長くなりましたが、私からの報告と代えさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

## 木下 正明委員長

邵パスト会長、ありがとうございました。これだけ聞いても分かりにくいところもあるかと思えます。要するに、何かを皆さんで討論する時に、講演を聞いて納得するのではなくて、それぞれがそれぞれの意見を出し合って、何かに収束させるのではなくて、こんな意見もある、あんな意見もあるということで、自分のクラブに持ち帰って、自分の年度の時に応用していくというやり方になります。

僕は、この議論の手法をRLIと言うのではないかなと理解をさせていただきました。ですから、繰り返しになりますが、葭本先生のお話をずっと聞いて終わるのではなく、皆で「ああでもない」「こうでもない」と。

私の体験がひとつあります。私は、1回目の6月8日に出たのです。ロータリー財団についてパッと並んで、「では、財団のお金は何に使われているか知っていますか」と聞いたら、「知らない」とか「知っている」、「○○○」とか言って、「じゃあ、自分の地区が使う時には、出したお金がどう戻ってくるか知っていますか」と聞かれるのです。そうすると、「3年後に出したお金の半分が戻ってくる」とか。私が地区幹事で知っていたから最後に私のところに回ってきて私が答えるみたいな形で

したけれども、知らない人が理解を深める場にもなっていたかと思います。

邵パスト会長がお話になりましたが、6チームで回していくので講師が12人必要なのです。それを養成するために今年2500地区として、札幌でわざわざRLIの講習会をやってRLIをマスターした人を増やしていこうという計画です。会社にも応用できるものですから、ぜひ興味があったらご参加いただいて、楽しければ続けていただければと思っております。以上が「RLIとは!」でございます。

参加費は4,000円です。地区でたぶん出せると思います。ただ、交通費が自腹になりますので札幌で遊ぶついでに行っていただければと思います。2月後半です。よろしくご協力のほどお願いいたします。以上でございます。

[Return to Top](#)

[Return to Web Site](#)